

人が集まれる

ビアガーデンに

No.26



HP 「里山ガーデン Afumi」引用

杉本地区のビアガーデンは平成3年（1991年）から始まり、平成29年（2017年）まで続けておられました。ビアガーデンを始められたきっかけは、繊維工場「キタヤマクロージング」の社長がビールを飲んでいて、工場から見える夕焼けがとてもきれいでやってみようかなと思ったからだそうです。また人の集まる施設をつくって山里に活気を取り戻そうと、飲食店がなかった農村地域に、地元の有志や近隣の自営業の人たちが賛同して、工場の一角を借りてビアガーデンをオープンしたそうです。机やイスは廃棄物をもらって使っていたそうです。暑い夏場の営業でした。

はじめた頃は、ビアガーデンのことが知られていなかったのので、ポスターを杉野や杉本や金居原の電柱にいっぱい貼って人を呼んで集めたそうです。人気が出てからは、多いときには40~50人来ていたそうです。新聞にも掲載されたことがあります。旧町外の常連客もいたそうで、セミしぐれや蛙の鳴き声をBGMに楽しんでいたそうです。

止めてしまった理由は、ついでくれる若い人が年々いなくなってしまったので平成29年に店を閉められることにしたそうです。

選んだ理由

八月の暑い時期になると、お父さんや地域の大人の方に、ビアガーデンの料理がおいしかったという話を聞いたことがあったのでどのような場所だったのか気になり調査しました。当時の新聞記事や経営されていた方にいろんな話を聞かせていただき、地域の活性化のためにはじめられたと聞き是非この取り組まれた事実を残したいと思い選びました。